

第91回 (R7. 7)

黄色い紙がやってきた

帰宅すると机の上に郵便物が。見れば**重要**と大きな文字が躍っている。何事かと封を切ると、中には黄色い紙が。

標題は**認知機能検査・高齢者講習通知書**とあり、75歳以上で運転免許の更新希望者は、認知機能の検査と講習を受けねばとある。何だ、この黄色い紙は！赤紙でもあるまいし、年寄りという理由だけで、一括りに招集し認知症検査をするとは何事だ！それでも男は怒りを隠して、電話で受講の手続きをとる。

運転免許センターの係官殿は誠に「親切」である。受講日が決まると『通知書に同封した「ご案内」という紙を出してください。講習の日時場所を書き込む欄があるでしょう。その欄に7年6月〇日午後1時と記入してください』と。要するに忘れないよう、きちんと日時をメモせよとのことである。年寄りだと思っ
て、馬鹿にするなという気持ちは抑えがたい。

いよいよその日が来た。会場に行くと腰が90度に曲がったお婆さんや、酸素ボンベを引っ張ったご老人もいる。

「年寄りから手数料7千円も取ってからに」とぼやいている老婦人もいる。俺はこの人たちと一緒に力デゴリーなかと、しばし呆然とする。いよいよ検査が始まった。初めに16枚の絵を見せられ、時間をおいてその絵を思い出すのだが、思いのほか苦戦する。さらに動体視力と暗所視力の検査があったがどちらも惨憺たる結果であった。検査が終わると、先程までの自尊心と自信は木っ端みじんに吹き飛んだ。

「私は皆さんから免許を取り上げようとしているわけではない。できるだけ長く安全に運転してもらいたいと思っている。」係官殿の言葉が胸に染みた。